

メキシコ政治情勢（2024年4月）

[概要]

【内政】

- 1日付エル・フィナンシエロ紙は、2024年大統領選挙に向けた世論調査結果を発表。各候補の支持率は、シェインバウム候補（与党連合）50%、ガルベス候補34%、マイネス候補7%であった。
- 2日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。ロペス・オブラドール大統領の支持率は58%（前月比+2ポイント）。
- 7日、全国選挙機関（INE）が主催した第一回大統領候補討論会が実施された。
- 12日、ピニャ最高裁（SCJN）長官は、最高裁はサルディバル前 SCJN 判事を行政調査していると明らかにした。
- 21日、メキシコ市長選挙に向けた第二回討論会の実施。
- 28日、大統領選挙に向けた第二回討論会の実施。

【外交】

- 5日、在エクアドル・メキシコ大使館に、エクアドル警察が立ち入り、同大使館に亡命申請をしていたグラス元エクアドル副大統領を拘束した。翌6日、メキシコ政府はエクアドルとの断交を発表した。
- 8日、墨内務省及び外務省は共同コミュニケを発出し、ペルー人の非正規移民の流れが急激に増加していることから、2012年以降免除となっていたペルー人のメキシコ訪問査証を一時的に再導入することを決定したと発表した。
- 24日、バルセナ外相は、メキシコを訪問中のラミロ・グアテマラ外相と会談を行った。
- 28日、ロペス・オブラドール大統領及びバイデン米大統領は、電話会議を実施し、移民管理について意見交換した。

[本文]

【内政】

1 2024年大統領選挙に向けた世論調査結果：エル・フィナンシエロ紙

1日付エル・フィナンシエロ紙は、2024年大統領選挙に向けた世論調査結果を発表したところ、概要以下のとおり。

（1）本日が大統領選挙であった場合、どの候補に投票するか。

ア シェインバウム候補（与党連合（MORENA、PVEM、PT））：51%
（前回（2月、以下同じ）50%）

イ ガルベス候補（野党連合（PAN、PRI、PRD））：34%（前回33%）

ウ マイネス候補（市民運動（MC））：7%（前回8%）

エ 未定：8%（前回9%）

(2) 以下の候補者についてどう評価するか。

ア シェインバウム候補

(ア) 肯定的：55%（前回51%）

(イ) 否定的：30%（前回33%）

(ウ) 分からない：15%（前回15%）

イ ガルベス候補

(ア) 肯定的：43%（前回46%）

(イ) 否定的：39%（前回38%）

(ウ) 分からない：18%（前回15%）

ウ マイネス候補

(ア) 肯定的：17%（前回18%）

(イ) 否定的：43%（前回37%）

(ウ) 分からない：40%（前回45%）

(3) 本日が大統領選挙であった場合、どの候補に投票するか（社会給付受給者又は非受給者ごと）。

ア 社会給付受給者

(ア) シェインバウム候補：64%

(イ) ガルベス候補：21%

(ウ) マイネス候補：6%

イ 社会給付非受給者

(ア) シェインバウム候補：36%

(イ) ガルベス候補：47%

(ウ) マイネス候補：8%

ウ あなた（回答者）又はあなたの親族は社会給付を受給しているか。

(ア) している：53%

(イ) していない：47%

(4) 選挙活動

ア 選挙活動の情報をフォローしているか。

(ア) ととてもしている：9%

(イ) ある程度している：31%

(ウ) ほとんどしていない：35%

(エ) まったくしていない：25%

(オ) 分からない：1%

イ 各候補の選挙活動をどう評価するか。

(ア) シェインバウム候補

・とても良い、良い：58%

- ・悪い、とても悪い：25%
- ・分からない：17%

(イ) ガルベス候補

- ・とても良い、良い：40%
- ・悪い、とても悪い：39%
- ・分からない：21%

(ウ) マイネス候補

- ・とても良い、良い：16%
- ・悪い、とても悪い：45%
- ・分からない：39%

ウ 各候補が選挙活動で行っているのは次のうちどれか。

(ア) シェインバウム候補

- ・政策の提案：68%
- ・批判・攻撃：22%
- ・分からない：10%

(イ) ガルベス候補

- ・政策の提案：46%
- ・批判・攻撃：42%
- ・分からない：12%

(ウ) マイネス候補

- ・政策の提案：29%
- ・批判・攻撃：43%
- ・分からない：28%

(5) 次期政権における喫緊の課題は何か。

- ア 犯罪及び治安悪化：41% (前回48%)
- イ 経済及び雇用：31% (前回33%)
- ウ 汚職及び透明性：13% (前回10%)
- エ 教育及び保健：9% (前回5%)
- オ 環境：3% (前回2%)
- カ 移民：2% (前回1%)

(6) 印象に残った公約はどれか。

- ア 社会事業 (女性、貧困層、若年層、高齢者支援) : 15%
- イ 治安：12%
- ウ 給与引き上げ：3%
- エ 水不足への対処：3%
- オ その他：28%

2 大統領支持率世論調査：エル・フィナンシエロ紙

2日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表したところ、概要以下のとおり。

(1) ロペス・オブラドール大統領の取組を支持するか。

ア 支持する：58%（前回（2月、以下同じ）56%）

イ 支持しない：41%（前回43%）

(2) 各分野における「ロ」政権の取組を如何に評価するか。

ア 経済

(ア) とても良い、又は良い：28%（前回29%）

(イ) とても悪い、又は悪い：42%（前回48%）

イ 治安対策

(ア) とても良い、又は良い：20%（前回22%）

(イ) とても悪い、又は悪い：68%（前回69%）

ウ 汚職対策

(ア) とても良い、又は良い：43%（前回42%）

(イ) とても悪い、又は悪い：43%（前回42%）

エ 社会給付

(ア) とても良い、又は良い：57%（前回55%）

(イ) とても悪い、又は悪い：26%（前回29%）

(3) 国内の主要な問題は何と考えるか。

ア 治安悪化：46%

イ 経済及び失業：24%

ウ 汚職：6%

エ 貧困：6%

3 第一回大統領候補討論会の実施

(1) 7日、全国選挙機関（INE）が主催した第一回大統領候補討論会が実施された。討論会のテーマは、①保険、教育、②汚職との闘い、③差別撤廃、弱者及び女性支援。

(2) シェインバウム候補は、候補者のなかで最も多くの提案を行うと同時に、ガルベス候補を「嘘つき」と批判。一方、ガルベス候補は、シェインバウム候補が2017年に倒壊した小学校に対して反応を示さなかったこと、及び地下鉄12号線崩落事故に関して適切な保守を実施していなかったことを例示し、同候補を「氷の女」と批判した。マイネス候補は、モレノPRI党首の資金をめぐるスキャンダルを例示し、ガルベス候補を批判した。

(3) 討論会終了後の各世論調査会社の調査によれば、10社中9社が、シェインバウム候補が勝利したと考える層が多数を占めた。

(4) 11日、ロペス・オブラドール大統領は、早朝記者会見において、同討論会のナラティブや司会者が実施した質問は、現政権が達成してきた成果について何ら認識させるものではなかったと批判した。

4 サルディバル前最高裁判事への調査

12日、ピニャ最高裁(SCJN)長官は、最高裁はサルディバル前SCJN判事を行政調査していると明らかにした。連邦司法審議会(CJF)は、汚職、隠匿財産、個人的又は第三者の利益を満たす目的で裁判官等に圧力をかけ判決をださせたとして、司法の独立性の侵害、性暴力、収賄、職権乱用、資源の流用の疑いで、サルディバル判事の協力者を調査している。

5 メキシコ市長選挙に向けた第二回公開討論会の実施

21日 メキシコ市長選挙に向けた第二回公開討論会が開催された。論争の焦点は、メキシコ市内汚染水問題で注目を集める「水」と「透明性と説明責任/汚職」。候補者の支持率は与野党間でさほど開いているわけではない。討論会後の世論調査では、6社中4社が与党ブルガダ候補が勝利との結果を出したが、野党タボアダ候補の方が良い提案を行った結果、MCチェルトトリフスキ候補が最も良い提案をしたとする結果もあった。

6 第二回大統領候補討論会の実施

28日 第二回大統領候補討論会が、①経済成長、雇用、インフレ、②貧困と不平等、③インフラと開発、④気候変動と持続可能な開発というテーマで実施された。討論後の世論調査では、8社中6社がシェインバウム候補が討論で勝利との結果を発表した。レフォルマ紙が52人の専門家に同討論会につき意見聴取したところ、33人が最もパフォーマンスを向上させたのはガルベス候補であると評価した。

【外交】

1 エクアドル警察の在エクアドル・メキシコ大使館立ち入り及び元副大統領の拘束

5日、エクアドル国内で刑事責任を問われており、エクアドルの首都キトにあるメキシコ大使館に亡命申請をしていたホルヘ・グラス元エクアドル副大統領をめぐり、メキシコ大使館が身柄引渡しに応じなかったことから、エクアドル警察がメキシコ大使館に立ち入り、同元副大統領の身柄を拘束した。これを受け、翌6日、墨メキシコ政府はエクアドルとの断交を発表した。その後、メキシコ政府は国際司法裁判所に本件を提訴した。

2 ペルー人のメキシコ訪問査証を一時的に再導入

8日、墨内務省及び外務省は共同コミュニケを発出し、ペルー人が無許可でメキシコに入国し、報酬を得る活動を行うなど、非正規移民の流れが急激に増加していることから、2012年以降免除となっていたペルー人のメキシコ訪問査証を一時的に再導入すること

を決定したと発表した。査証は、2024年4月20日から発効。一方、ペルー外務省は、相互主義の原則に基づき、ペルーを訪問するメキシコ国民に査証を課すと発表した。

3 墨グアテマラ外相会談

24日、バルセナ外相は、訪墨中のラミロ・グアテマラ外相と会談を行い、両者は貿易、労働移動、二国間関係強化のための協力について協議した。両外相は、子供と青少年の保護、ケア、帰還のプロセスを強化するための文書に署名した。

4 墨米電話首脳会談

28日、ロペス・オブラドール大統領及びバイデン米大統領は、電話会議を実施した。両首脳は、効率的な移民管理に向け協議し、西半球全体で移民の根本原因に取り組むイニシアチブを推進することを約束、移民問題対処にあたっては相互の繁栄と治安の向上が不可欠であると指摘した。